

さあ！やるぞ！！琴浦初イチゴ狩り観光農園に向けて

村上 功喜

1 はじめに

平成 11 年 Uターンし帰郷。

平成 12 年 先進農家で二十世紀梨とイチゴの栽培研修を実施。

平成 13 年「ファームむらかみ」設立。二十世紀梨 10a、イチゴ 7a（2棟）営農開始。

平成 15 年 二十世紀梨を中止し、イチゴ専作経営に転換。イチゴ 19a（5棟）「莓工房ファームむらかみ」と名称変更。

平成 18 年度（単県）チャレンジプラン支援事業を活用し、栽培ハウス 7a（2棟）、育苗ハウス 3a（1棟）、作業小屋、高設栽培 1棟（5ベッド）を導入し規模拡大を行った。

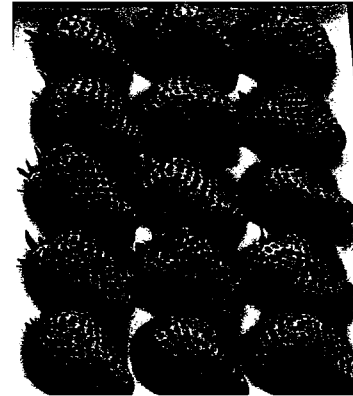
当園の特徴としては上質な有機物にバクテリア、各種有効菌、ミネラル等の微量要素をプラスした健全な土作りを行い、極力農薬を減らし、また、甘く大粒になるよう育苗時から収穫までビニールハウス内でモーツアルトを聴かせて育てている。

ブランド名を「まつりか」「ゆうあかね」として、出荷地域、店舗によりブランド名を使い分けている。当初から鳥取県西部の百貨店、スーパーへのパック出荷や洋菓子店での利用を進め、鳥取県東部においても同様に販路が拡大しつつある。

近年では、より高単価で販売の見込みのある関東の都市部への販路拡大を進め、東京のスーパーとの取引が実現している。

現在栽培ハウス 7棟（27.0a）、育苗ハウス 1棟（3.0a）で植栽を実施。

※モーツアルト効果：モーツアルトの曲にリラックス効果があることから科学誌「ネイチャー」にも取り上げられている。ことでよく知られた効果。野菜、果物も美味しくなると言われている。



2 目的

観光イチゴ園を開設することで琴浦町への来町者数を増加し琴浦町の活性化を図る。

イチゴ狩り受け入れ人数（大人）（人）

平成 29	平成 30	平成 31	平成 32
216	650	770	846

3 現状

全国的な農業従事者の現状と同様、自社においても従業員の高齢化により従来の過重労働を強いられる土耕栽培では十分な管理作業が出来ない状況となりつつある。

現状では 5棟（20a）のハウスで土耕栽培を継続しているが、高設栽培と比べ土耕栽培のイチゴの味を好まれる消費者が居られるため、全面高設栽培への切り替えを躊躇している。

スタッフは、本人、常勤 1 名、パート 2 名、春節パート 2 名で作業を行っている。収穫最盛期である 4 月、5 月はパック詰め作業が繁雑になることから葉掻き等の管理作業に手が回らなくなり作業遅れが発生している。

高単価イチゴ購入者の購入目的は「プライベートギフト」「フォーマルギフト」であり、「大粒」「形状」「高級感」が重要な選択ポイントとなっているため、着色、果実肥大をスムーズに行うことが要求されるが、一般的なビニール素材では光の透過率が劣

るため高品質果実生産に苦慮している状況。

施設整備	数量	規格	用途	導入年	プラン実施後
ビニールハウス	1棟	3.0a	育苗	H18	育苗
ビニールハウス	1棟	3.5a	高設	H18	高設
ビニールハウス	1棟	2.0a		H12	
ビニールハウス	1棟	5.0a	土耕	H18	
ビニールハウス	1棟	5.0a		H18	
ビニールハウス	1棟	3.5a		H18	
ビニールハウス	1棟	3.25a		H18	
作業小屋	1棟			H18	
畝立て機	1台			H12	
小型耕耘機	1台			H18	

出荷先	販売先	商品	取引社数
市場経由	米子	「まつりか」	5社
	関西	「まつりか」	1社
	鳥取	「ゆうあかね」	2社
	岡山	「ゆうあかね」	1社
	島根	「まつりか」	2社
直接販売	東京	「まつりか」	1社
洋菓子店	米子	「まつりか」	5社
新規開拓			3社



4 課題と対策

(1) 担い手と観光いちご園

【課題、現状】

従来から少人数ではあるが試験的に町内保育園、小学校に対してイチゴ狩りを受け入れていたが高設ハウスの面積が少なく、また土耕ハウスでは排水が悪いため降雨後は歩き溝に水が溜まりイチゴ狩りができない事が多かった。

車いすの方は高設ハウスでしかイチゴ狩りが出来ないため、十分な数量が確保できないため受入を断った事もあった。

もっと多くの方にイチゴ狩りをしていただきたいが、高設ハウスの面積が現在 5.5a (2棟) と小さく少ないため予約を受けることが出来ない。

琴浦町には体験型の観光地が少なく、グルメストリート等で食事をしたら町外に移動してしまい、琴浦町内での滞在時間が非常に短い。

【対策】

高設ハウスを増床することで収穫期間も延長することができ、またイチゴ狩り受入人数を増加できる。

ファームむらかみのイチゴ狩りと琴浦町の名所等を県内外に情報発信することで、観光客誘致に貢献できる。情報発信方法としてはフェイスブック、ブログによる栽培日記及び琴浦町観光課と協力します。

車いすの方、足の不自由な高齢者もイチゴ狩りが楽しめる。

通常出荷は果肉温度が上がるため冬期10時、春期9時までに収穫を終了する必要

があるが、イチゴ狩り主体にシフトすることで収穫、出荷及び納品時間に追われることが無くなり、ゆとりある農業が可能となる。また、ゆとりある農業を希望する若手農業者の手本になることで琴浦町の新規就農者の増加に貢献することができる。

現在私は琴浦町商工会商業部幹事をしており、町内の商業の活性化、地域との連携を醸成するため、経営セミナー、各種講座を主催しています。本プランを契機として琴浦町の商業、農業の橋渡しを行い観光農業を進めていきたいと思っております。

(2) 高設栽培施設の導入

【課題】

現在2棟(3.5a、2.0a)の計5.5aを高設栽培、5棟(21.5a)を土耕栽培としている。

土耕栽培を中心に営農してきたが、土耕栽培は春期になると急激に地温が上昇し株が弱ることに加え果肉温度上昇により果実の軟化等の品質低下が多発するため5月下旬までしか収穫できない。

一方、高設栽培は、地温を低く抑えるので6月、7月まで収穫可能となっているが、収穫及びパック詰めは全イチゴ労働時間の約30%を占め、他の管理作業に手が回らない状況となっているため、今後新たな雇用及び各種作業の効率化が必須課題である。

【対策】

土耕ハウス20aのうち、2棟(10a)に高設設備を導入し、収穫期間の延長を図る。

収穫期間が延長できるため、6月7月にも上質なイチゴの収穫が可能になり、この時期の市場、洋菓子店を中心に売上、雇用の安定が実現できる。

土耕ハウスは、降雨後に歩き溝に帯水するため管理作業が十分に出来なかったが、高設ハウスを導入する事で、天候に左右されることなく栽培管理作業が出来るため作業の遅れが無くなり適期管理が可能となる。

直立姿勢での管理作業が可能となるため、高齢従業員の作業性がアップする。

前回のチャレンジプラン事業で一部であるが高設設備を導入したことで、高設での栽培技術は身に付けることが出来た。また、収穫量についても土耕栽培並みの収量を確保できることも確認することが出来た。



図1 高設栽培及び土耕栽培における10a当たりの労働時間の年間推移(経営の手引き参考)

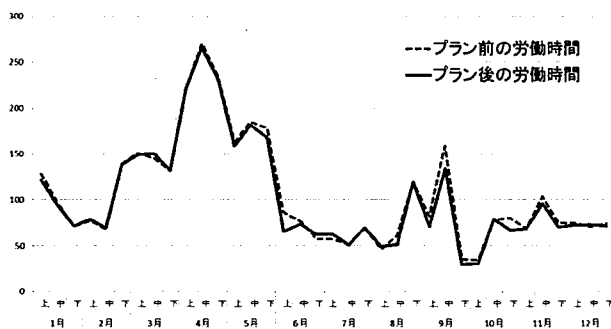


図2 プラン前後における労働時間の年間推移(経営の手引き参考)

(3) 底面給水による炭疽病の対策

【現状】

現在の育苗方法は旧式な底面給水を行っており、十分な底面給水が出来ていないため、土壌が乾燥した場合は育苗ポットごとに株元灌水を実施しており結果として炭疽病の発生が多くなっている状況です。

【対策】

新しい方式の底面給水施設を導入する事で、底面からの給水が行えるため株元灌水は不要となるため炭疽病の発生は無くなる。また、ポット毎の灌水時間が無くなるため労力の削減にも繋がる。

(4) 新型畝立て機の導入

【現状】

現在、使用している畝立て機は 15 年前の機種だが、畝の高さが低いため果房が地面に接触し出荷不能のイチゴの発生確率が高い。

畝立て作業は非常に力が必要であるが、高齢となると畝立て機を保持する腕力が不十分となり機械が早く移動してしまい畝の締まりが悪かったり、土上げが不十分であったりするため、畝が崩れやすく手直しが非常に多い。

畝の高さが低いため、基肥施肥、植付け、マルチング、間引き、葉掻き等の管理作業は常に地べたを這うような姿勢での作業となり労働負荷が高く、作業性が非常に悪い。

【対策】

新型畝立て機は性能と馬力向上により、現状より高い畝が作れるため品質の高い果実生産ができる。また、作業姿勢が改善されるため作業性が良くなり適期作業が可能となる。

操作性が向上するため締まった畝が作れ、労働負荷が軽減される。



(5) 高施設導入ハウスの新素材ビニールへの交換と寒冷紗の導入

【現状】

従来のビニール素材は結露が発生しぼた落ちした水滴がイチゴ株、果実に付着することで加湿となり、灰カビを中心とした様々な病気が多発している。

また、光の透過性が劣るため、光合成能力が低下し花粉の質が悪くなることで果実の奇形、変形が多くなる。

既存の高設ハウスは、間口が 10m、ハウス高が 5m と大型ハウスとなっており、高齢従業員による自力でのビニール展張は非常に危険であり張り替えが出来ない状態。

使用中の寒冷紗は遮光率 60% と薄暗く、病気の発生が多い。

【対策】

新素材ビニールは流滴性、保温性にも優れ重要病害である灰カビ病を中心とした各種病気を抑制できる。また、光の透過性に優れるため光合成能力向上により、受精能力向上、糖度アップ、栽培回転スピードアップによる収量及び品質増が期待できる。

寒冷紗も新素材により強風への耐久性の向上、遮光率 40% とイチゴにとってベストな環境に成り新素材ビニールとの相乗効果により、病害抑制が可能となる。

4 効果

- ①琴浦町の観光と協力することで、リピーターが増加し、毎年琴浦町に来てもらえる。
- ②琴浦町の観光名所及びグルメストリートの活性化。
- ③新規就農者の研修を受け入れ、栽培方法、観光イチゴ園の運営の指導を行える。
- ④地元の保育園、小学生及び老人ホームの入所者等に地元農産物に親しんでもらう。
- ⑤雇用の増加。
- ⑥高齢となっても、ゆとりある農業が可能であることを琴浦町内に広く宣伝する。

取組と役割分担

項目	H28	H29	H30	H31	H32	分担等
ICTの導入	○					事業主体、商工
ハウスビニール展張		◎				事業主体、県、町
育苗底面給水		◎				事業主体、県、町
遮光資材		◎				事業主体、県、町
畝立て専用機		◎				事業主体、県、町
高設設備導入		◎				事業主体、県、町
鳥獣防止ネット		○				事業主体、県、町
観光促進		○	○	○	○	事業主体、町
担い手育成		○	○	○	○	事業主体、県、町
看板作成		○				事業主体、商工
観光園周辺設備			○			事業主体、商工

支援事業の内容

単位：円、税抜き

年度	項目	事業費	負担区分		
			県	町	事業主体
H29	ハウスビニール展張	832,000	277,333	138,667	416,000
	畝立て機	479,000	159,666	79,834	239,500
	底面給水育苗	1,400,000	466,666	233,334	700,000
	高設設備	3,423,760	1,141,253	570,627	1,711,880
	看板作成	30,000	10,000	5,000	15,000
合計		6,164,760	2,054,918	1,027,462	3,082,380